



教室の窓辺

高学年の迫力を

うたごえに込めて

豊川市立中部小学校 教諭 辻 拓也

本校では、学芸的行事として「うたごえ発表会」を行っています。学年ごとに練習を積み重ね、全校児童で互いの歌を聴き合い、地域や保護者に向けて発表します。子どもたちは歌うことに対して自信をもち、中部小学校のうたごえ発表会を誇りに思っています。

「聴いている人を感動させたい。だから『高学年の迫力をうたごえに込めて』という目標にしたいです。」

この発言に象徴されるように、うたごえ発表会に向けた目標を全員が納得し、我がクラスも動き出しました。目標を達成するための柱は3つです。

- ① 指揮者を見て歌うこと
- ② 楽譜通りに歌うこと
- ③ 歌詞の意味を考えて歌うこと

パートリーダーを中心に、3つの柱を意識した練習が始まりました。すると、学級で話し合ったことを学年で伝えたいという意見がでてきた。

した。歌詞の解釈を深める機会になればと、学年集会を開くことになりました。そこでは、

「歌詞の中に出てくる鳥は、本当の鳥のことではなく、夢のことをさしているのではないか。小さな鳥が成長して大きく羽ばたいていくように、一人一人が夢を大切に、努力してかなえていくことを歌で伝えたいのだ。」という考えが導き出されました。この考えに触発された子どもたちは更なる高みを目指し、全員でがんばろうという雰囲気が高まりました。本書に向け、真剣に練習する姿が見られました。

道徳で、伝統や文化の主題で授業をした時、次のような発言がありました。

「その文化を愛し続けることが大切だと思います。わたしたちの『うたごえ発表会』も、同じようにつないでいきたいです。」

この発言に感動しました。行事にかける子どもたちの思いを強く感じました。「カリキュラム・マネジメント」ということが言われますが、行事と教科とが繋がったと実感できました。

これらの実践は、私一人の力ではできません。先輩の先生方に教えていただき、学年の協力があってできたことです。

初めての練習で、到達度26点と言った子が本書の後に105点と書きました。子どもに達成感や満足感を味わわせることができてうれしかった、自信になりました。



今年度は持ち上がり、6年生を担任している辻教諭、特別活動主任として積極的な生徒指導をしています。子どもの見せる小さなサインを見逃さない、きめ細かな観察力に感心します。さまざまな問題に対し、未然防止と的確な初期対応をしてくれています。

子どもとともに成長を続けることを喜びとしています。そこが肝です。今後も、子どもの近くに寄り添い続ける教師でいてほしいと願っています。

（校長 鈴木 一哉）